

令和5年度
授業改善推進プラン

令和5年8月
大田区立羽田中学校

目 次

令和5年度 大田区立羽田中学校 授業改善推進プラン全体計画	1
各教科の授業改善推進プラン	
国語科	2, 3, 4
社会科	5, 6
数学科	7, 8, 9
理科	10, 11
英語科	12, 13, 14
音楽科	15, 16
保健体育科	17, 18
技術・家庭科	19

【関係法令等】

- 日本国憲法 ○教育基本法
- 学校教育法 ○学習指導要領
- 東京都教育委員会教育目標
- 大田区教育委員会教育目標

【学校の教育目標】

人間尊重の精神を基調として、広い視野をもって未来を生き抜く、心身共にたくましい生徒を育てるために、次の三つの力を生徒に身につけさせるために、全教職員で教育実践に取り組む。

○「豊かな心」 ○「学ぶ力」 ○「健やかな体」

【願い】

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される生徒像

学校経営方針 民主的な社会の形成者としての資質育成を期し、生徒・教職員が日々努力する学校を目指して

『豊かな心と主体性を育む教育』を推進する。
『学力向上・体力向上のための取り組み』を推進する。
『地域と共にこどもを育てる教育』を推進する。
『規律ある学校生活』を送らせる。
『信頼される学校』であり続ける。

【各教科の指導の重点】

○「区学習効果測定」、「全国学力・学習状況調査」「保護者・生徒による授業評価」等の結果分析、基礎・基本の定着と思考力を高めるための「授業改善推進プラン」の作成による授業改善への取り組みの充実

○自己調整学習に必要なスキルを指導し、家庭学習の定着と学力向上を図る

○自分の意見を述べ、他者の意見を共有する対話的学習を推進するため、タブレットなどのICT機器を有効活用する

○土曜補習(年7回)、放課後学習教室

【本校における確かな学力の捉え方】

本校では生徒の人間としての調和のとれた成長を目指し、次に掲げる力を育成する。

- ①基本的な生活習慣と学習習慣
 - ・規則正しい生活をしていこうとする意識
 - ・家庭学習を継続する力
- ②授業規律と学習環境を整える力(姿勢・態度・服装・授業前の準備)
 - ・学習用具を揃える力
 - ・話を聞く力
 - ・ノートをとる力
- ③基礎・基本的な学力
 - ・読む力
 - ・読んで理解する力
 - ・話す力
 - ・書く力
 - ・計算する力
- ④知識及び技能を活用する力
 - ・思考力
 - ・判断力
 - ・表現力
 - ・発表力
- ⑤主体的・創造的に学び続ける意欲や態度
- ⑥情報の収集能力・活用能力
- ⑦自ら課題を設定し探究する力、課題解決能力、コミュニケーション能力
- ⑧マナーや規範意識
- ⑨個性・適性を生かし社会に貢献していく力、自己実現を図ろうとする力

【道徳教育の指導の重点】

○「深く考え、議論する」道徳へ向けた指導法の研修を推進し、意図的・計画的な道徳授業の実施を図る。

○小中連携「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力(自己指導力)を養う。

○ICT機器を用いて、互いの考えを共有・整理し、それを認め合う場を設ける。

○道徳授業地区公開講座を充実させ、家庭や地域社会と連携して心の教育を推進する。

○自他の命を大切にすることを養い、命の尊さを知る教育に取り組む。(3月生命尊重週間)

【総合的な学習の指導の重点】

○生徒自らが課題を設定し探求する学習の3年間を見通した計画的な実施

○環境問題や国際問題、地域の課題、職業や自らの将来などへの課題意識をもたせる指導と、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成

○図書室やタブレットの有効活用、地域の図書館や関係諸機関との連携など、様々な学習環境の積極的な活用

基礎的・基本的な生活習慣・学習習慣

◇ 広義の基礎・基本
学習指導要領に示された目標および内容

◆ 狭義の基礎・基本
・読む力 ・読んで理解する力 ・話す力
・書く力 ・計算する力
・生徒の実態に応じた身につけたい力

【特別活動の指導の重点】

○「時と場と立場をわきまえた行動」の確立と主体的な活動を通じた自己伸張

○生徒会活動・学級活動の充実による社会形成スキルの育成と自立的な団体の育成

○部活動への積極的な取り組みによる豊かな感性の涵養と体力の向上、生徒相互・生徒と教師の信頼関係の深化

○特別支援学級との交流活動の充実

○地域や校内ボランティアの充実(地域行事スタッフ・清掃)

【進路指導・キャリア教育の指導の重点】

○「人としてのあり方、生き方」を考えさせる指導

○3年間を見通した進路指導計画に基づく系統的・計画的な指導の継続

○就労者の講演会やマナー講習等を通して、社会に貢献する態度の育成と自己実現を図ろうとする力の涵養

【生活指導の重点】

○規範意識の向上と望ましい生活習慣の確立

○学校生活調査とWebQIの実施、スクールカウンセラーやサポーター、不登校対応教室(とりもり)と連携した教育相談の充実

○地域や家庭、関係諸機関との連携による健全育成、安全指導の徹底(情報モラル教室・薬物乱用防止教室)

○支援委員会を中心に、不登校や課題のある生徒への支援・対応を効果的に進める

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	研究・研修への取り組み	評価の工夫	小学校および家庭や地域社会との連携の工夫
学習指導要領の趣旨を踏まえて ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう態度の育成 ○学校評価の改善・工夫と、それを生かした授業評価の実施 ○「朝読書」「朝学習」「新聞教育」を活用した読解力・表現力の育成 ○道徳の授業の充実 ○サポーターを活用した、指導の充実	○数学(全学年)で少人数習熟度別授業を実施 ○英語(全学年)でティームティーチングによる指導を実施 ○総合的な学習の時間における職場体験・上級学校訪問などの体験的な活動の充実 ○個に応じた指導の充実のため「学習カルテ」の作成とカルテに基づく個別面談の実施 ○オンデマンド授業やタブレット学習による学習機会の保証と充実 ○学習方略のスキルの指導、家庭学習習慣の定着と学力向上を目指し、仮定額宗教室週間の実施	○生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫と学力向上のための取り組みの充実 ○職層に応じた研修や校外の研修への積極的な参加と研修成果の還元 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育に対する支援体制の確立とケース会議の充実 ○タブレットを活用した学習と、その有効な活用法の研究の充実 ○各教員の授業力向上のため、授業相互見学週間の充実	○より精度の高い評価基準を目指した適切な評価計画に基づく評価の実施 ○生徒が自分自身の課題を見出させ、生徒の学習意欲の喚起を図るため、指導と評価の一体化を目指した授業実践 ○各教科の学習状況の保護者への周知と家庭における学習習慣の定着を目指した取り組みの推進	○連携小学校との共通指導目標(「学習指導・生活指導スタンダード」)の活用 ○小学校児童を対象とした中学校見学・部活動体験の実施 ○ボランティア活動への積極的な参加の促進と地域との連携の充実 ○「アシスト羽中(学校地域支援本部)」との連携 ○学校と家庭の連携推進事業の活用による問題行動への対応

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・説明的文章・文学的文章などに音読指導を行うことによって漢字についての知識や文法的な知識など基礎的・基本的な知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。
- ・小テスト、単元テストを繰り返し行うことで、知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。

(2) 課題

- ・各領域や3観点すべての基本となる考える力や語彙力に課題がある。活字に触れる機会を確保するとともに、日常の言語活動を意識的に捉える習慣をつけながら、理解や思考の深まりにつなげる指導を組み立てる。
- ・授業での学習同様に、基礎学力の定着には家庭学習が重要であることを伝えながら、意欲的に課題に取り組めるように指導する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全体として目標値を7.0ポイント下回った。活用に当たる部分が15ポイント以上下回っている。区や全国の正答率と比較してすべての領域で下回っており、情報の扱い方に関する事項の部分に課題が残る。	/	/
第2学年	全体として目標値を0.1ポイント上回った。区の正答率と比較して上回っている領域もあるが、全国の正答率と比べて全体的に下回っている。	全体として目標値を4.1ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較すると、全体的には下回っている。	/
第3学年	全体として目標値を8.1ポイント下回った。活用に当たる部分が10ポイント以上下回っている。区や全国の正答率と比較してすべての領域で下回っており、書くことに関する部分に課題が残る。	全体として目標値を2.0ポイント下回った。区や全国の正答率と比較して上回っている領域もあるが、全体的に下回っている。言語的事項の部分に課題が残る。	全体としては目標値を3.1ポイント上回った。しかし区や全国の正答率と比較すると上回っている領域もあるが、全体的には下回っている。基礎の問題の部分を強化し、定着を図りたい。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を5.8ポイント下回った。漢字の読み取りや書き取りなど語句に関する知識が目標値を大きく下回っており、言語的事項や書く力の定着を図りたい。	目標値を9.5ポイント下回った。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」など、登場人物の心情を読み取る力や書き取る力など考える力に課題が残る。	目標値を10.1ポイント下回った。聞き取り問題や文章の記述問題など根気よく解くことが出来ずに諦めてしまうことなどに課題が残る。

② 第2学年、

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を0.23ポイント下回った。漢字の書き取りや文法語句に関する知識が目標値を大きく下回っており、言語的事項や書く力の定着を図りたい。	目標値を2.3ポイント上回った。文学的文章を読み取る力は目標値や区の正答率を下回っている。説明的文章の読解と平行して、登場人物の心情を読み取る力をつけたい。	目標値を0.9ポイント下回っていた。区や全国の正答率より大きく下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を5.6ポイント下回った。漢字の読み取りなどは比較的得意とする生徒が多い反面、漢字を普段の生活でも使うことが定着していない。	目標値を10.2ポイント下回った。「書くこと」「読むこと」など文章などの登場人物の心情を読み取る力や書き取る力が定着しておらず、課題が残る。	目標値を20.1ポイント下回った。聞き取り問題や文章の記述問題など根気よく解くことが出来ずに諦めてしまうことなどに課題が残る。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項を定着させるため、漢字の小テストなどを定期的実施し、繰り返し復習することで定着を図る。またいろいろな分野の本を読むことで活用の足りていない力を育成するために、司書と連携しながら図書室との連携を図る。	「話すこと・聞くこと」に関しては、小グループでの学び合いの場を設け、意見交換をし、お互いに学ぶ場を増やす。「書くこと」「読むこと」では、読解力の向上を図るため教科書以外の文章に触れるようにする。また記述問題に対して、単元が終わるたびに5行感想を書くなど、書く習慣を身に付けるようにする。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる一方、まだ意欲の低い生徒もいる。授業に意欲的に取り組めるように、身近な事例を授業の中に取り入れながら、関心・意欲の向上を図る。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項を定着させるため、漢字や文法の小テストなどの実施を定期的に行う。また活用の部分の力を育成するために、いろいろな分野の本を読むように指導に力を入れる。	読解問題や作文など、事実や心情を明確に読み取ったり伝えたりするための方法や力を育成するために、具体的に細かな指導に力を入れる。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる一方、まだ意欲の低い生徒もいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識事項を定着させるため、漢字の小テストなどを定期的の実施し、繰り返し復習することで定着を図る。またいろいろな分野の本を読むことで活用の足りていない力を育成するために、司書と連携しながら図書室との連携を図る。	「話すこと・聞くこと」に関しては、小グループでの学び合いの場を設け、意見交換をし、お互いに学ぶ場を増やす。「書くこと」「読むこと」では、読解力の向上を図るため教科書以外の文章に触れるようにする。また記述問題に対して、単元が終わるたびに5行感想を書くなど、書く習慣を身に付けるようにする。	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる一方、まだ意欲の低い生徒もいる。授業に意欲的に取り組めるように、身近な事例を授業の中に取り入れながら、関心・意欲の向上を図る。

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 2, 3年生においてはワークを用いた問題演習や單元ごとのテスト等を繰り返し行ってきたことで基礎的・基本的な知識が定着してきている。また、毎時間の新聞読解により、社会的な事象についての関心も高くなっている。

(2) 課題

- ・ 3年生については、基礎的な内容を習熟しているが、地理的分野と歴史的分野で定着率が低いところがある。また、2年生については、地理的分野・歴史的分野ともに、資料の読み取りについて課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	目標値から11.7ポイント下回っている。基礎的な内容について身につけていない。資料や事象間の関連性についての読み取りも苦手である。	/	/
第2学年	目標値から3.6ポイント下回っている。基礎的な内容については概ね身につけているが、地理的分野の「日本の姿」が苦手である。	目標値から0.5ポイント上回っている。基礎的な内容については習熟しているが、資料や事象間の関連性についての読み取りが苦手である。	/
第3学年	目標値から4.8ポイント上回っており、どの分野もおおむね習得していることがわかるが、「日本の諸地域」の単元のみ、目標値を0.5ポイント下回っている。	目標値から0.5ポイント下回っている。特に世界の諸地域や東アジアにおける歴史上の外交関係が苦手で、目標値を大きく下回っているところがある。	目標値から0.5ポイント下回っている。地理的分野では活用に関する問題で基礎的な部分に課題がある。歴史的分野では前近代の範囲の問題で正答率が低くなっている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野ともに苦手である。特に、地理的分野（「日本の農林水産業・食料生産」）の正答率が低い。	目標値を8.4ポイント下回っている。特に平安時代の特色や参勤交代についての読み取り問題で、正答率が低かった。	学習態度については、目標値を14.8ポイント下回っており、社会科という教科に苦手意識をもっていることがうかがえる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の領域や都道府県の位置・名称についての正答率が低い。世界の姿の学習後、学習に対する意欲が大幅に低下した可能性がある。	欧州の気候の特色やオーストラリアの鉱業の資料読み取りの正答率が特に低い。資料をもとに考察し、表現することが苦手である。	昨年度よりも7.7ポイント下がっているので、社会科という教科に対する関心や興味そのものが減退している可能性がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野・歴史的分野の基本的な知識を問う問題については概ね正答できていたが、株仲間の正答率がやや低くなっている。	前年度と比較すると、記述問題の正答率が上がっている。ただ、世界や日本の米の生産の読み取りに対する正答率がやや低くなっている。	地理的分野、歴史的分野ともに、目標値を上回る正答率となっている。社会科に対する関心・興味を持ち続けていることがうかがえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎時の授業内において適宜、既習事項の振り返りをして学習内容の定着を図る。ICT 機器を活用して、資料の読み取りの基礎を徹底的に行い、読み取った内容を記述させる。	授業内で既習の知識や用語をどのように活用すれば、社会的事象を説明することができるかについて解説し、主体的に社会的事象を説明できる力を養うようにしていく。	授業内で既習した内容を活用することのできる課題を設定し、その課題に対する回答を自ら考え、まとめさせる学習活動を行う。(学習形態として、グループワークを含む)

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに単元テストを行い、地理的事象や歴史的事象についての基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。定期考査で定着した知識をさらに活用するための学習活動を適宜実施する。	授業の中で、様々な資料の読み取りと説明を適宜おこなう。さらに地理的事象や歴史的事象について自ら説明できる力を身につけることができるようにするための学習活動を設定する。	単元毎に学習ワークへの取り組みを徹底させ、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。社会科の興味・関心を喚起できるように新聞記事の読解を毎時おこない、世の中のできごとを学ぶ。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な既習事項を授業内において反復して問うことで学習内容の定着を図る。単元テストで、さらに知識の定着を確認する。ICT 機器を活用して社会的事象についての資料の読み取りを確実に習得する。	授業中に自分で単元内容を様々な資料を活用して、まとめる時間を多く設定する。また、各単元内容のつながりについて、様々な資料を活用して、主体的に説明できる力を伸ばす取り組みを増やしていく。	学習ワークで基礎的、基本的な知識の習得に限らず、資料の読み取り問題等にも主体的に取り組ませる。社会科の興味・関心を喚起できるように新聞記事の読解を毎時おこない、世の中のできごとを学ぶ。

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習している内容と、異なる領域や他教科とのつながりを生徒に認識させることにより、生徒が自ら学ぼうとする意欲を引き出す授業展開を図ることができている
- ・現在学習している内容が、既習事項からどのようにして導き出されるものなのかを生徒に考えさせることにより、系統的な学習に繋げることができている
- ・タブレットを用いることにより、問題解決するためのイメージを湧かせることができ、理解の定着に繋がっている。またドリル学習も行えることで、授業だけでなく家庭でも学習する機会を得ることができている

(2) 課題

- ・学習内容の定着に課題がある。例えば、図形領域を学習していると、数と式領域の内容が抜けてしまう節がある。定期的に、過去の学習内容を振り返る機会をとり、学習内容の定着を図る
- ・公式や定理を暗記しようとする傾向がある。定義をもとにし、そこからどのように定理が導き出されているのか、その過程の理解に努めさせる必要がある。適宜生徒の考えを引き出し、それを共有・説明する場を設け、理解の定着を図る
- ・表や図、グラフの読み取りに課題がある。しかし一問一答形式であれば理解することが出来るので、読み取るポイントを理解させ課題解決を図る

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全体的に、昨年度よりポイントを落としている。特に小数・分数の計算、図形領域の下降率が大きい。また文やグラフを読み取ること、それを式化することにも課題が見られる。		
第2学年	全体として昨年度より、0.9ポイントほど上昇した。特に、図形、統計、では昨年度より正答率を上げたものが多い。一方計算問題での課題が見られる。	全体として、昨年度より3.6ポイント上昇した。小数・分数の計算、整数の性質以外は目標値と変わらないか、上回っている。	
第3学年	全体として、昨年度より2ポイントほど下降した。特に、1次関数領域は、昨年度を大きく下回っていた。一方、式の計算においては昨年度よりポイントが上昇した。	全体として、昨年度より9ポイントほど上昇した。しかし資料の活用領域では、目標値に達していない問題があった。分数や累乗の計算の正答率が、昨年度を下回っていた。	全体として、昨年度より3ポイント下降した。特に、小数や分数の四則演算の正答率が、昨年度を大きく下回っていた。一方、百分率の問題の正答率は上昇していた。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的にポイントが下がり、基礎的な知識が定着していない。分数の計算では、約分が入ると大きく正答率が下がる。関数領域では、比例反比例の判断する問題に対し、それを式に表す問題の正答率が下がる。平均の意味は理解しているようで、正答率は昨年並みか高い。	他の観点ほどポイントは下がっていない。比の関係の理解に課題がある。しかし、文字と式領域の正答率は、昨年並みか上がっているものもある。また、単位量当たりの大きさ、割合の考え方を問うものも、昨年並みの正答率である。	複雑な立体の体積の求め方を考えたり、場合の数を数える問題の正答率が大きく下がっている。問題を、粘り強く考え取り組む姿勢に課題があると考えられる。棒グラフの読み取りは出来ているが、他のグラフと比べて考える問題になると、正答率が大きく下がる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に目標値を上回っている。文字式、方程式についての理解は深まっているが、四則演算の理解が昨年度を下回っている。特に分数を含む計算が課題である。	目標値を上回っているものがほとんどであるが、関数の理解が昨年度より下回っている。とりわけグラフと式の関係の理解が不十分である。	式からグラフを描くことが目標値を達していない。ヒストグラムの読み取りは目標値を達しているが、昨年より大幅に下がっている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度とほぼ同等となった。方程式を解く問題が目標値を上回った一方、確率が目標値を下回った結果になった。	昨年度よりポイントを下回った。特に証明問題が目標値より下回る結果になった。その一方で、1次関数のなかの図形を見いだす問題は目標値を上回った。	実際に起こった内容を1次関数にとらえることは目標値を下回った。その一方で、式からグラフを見いだすことは目標値を上回った。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎授業計算課題を出し、苦手箇所を明確にさせ改善を図る。また、公式を単に暗記している節が効果測定からも窺える。公式が得られる、その過程をきちんと理解した上で、活用問題を取り扱うよう丁寧な指導を行う。	正答誤答で問わず、なぜそのように考えたのかを説明させることを徹底させる。自分の考えを整理して表現したり、他人の考え方を吟味するなどの対話的な学習を必要に応じ進める。またICT 機器も適宜活用し、表現の幅も広げていく。	問題を解決する糸口を見出させる指導を徹底する。問題で分かっていること、そこから更に分かることは何か、既習事項がどのように使えそうかを常に考えさせる。そして各生徒に、既習事項を使えば問題解決に繋がるという意識を培っていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題となる四則演算や分数の計算を長期休みの課題に取り入れ、定期的に確認テストを実施して定着をはかる。	関数の基礎知識を定着させ、グラフを読み取り分析する力を身につけさせる。それにより思考する力を養う。	自分で課題を見つけ、自主学習できるような力を身につけさせる。そのために小テストを実施して学習状況を確認させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関数や確率といったしばらく学習していない内容が目標値を下回った。定期的な復習を行い、確実な定着を図る。	生徒どうしで考える時間を必ず設け、対話型の学習を促す。自分の考えを相手に伝える練習をつねに行い、表現力を磨くとともに相互の深い学びにつなげる。	問題解決のために何が必要か自身で考え、粘り強く学習に取り組めるような課題設定を行う。既習事項を精査するとともに、新しい問題を解く姿勢を育成するような指導を行う。

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年生は、「知識・技能」の観点で、比較的正答率が高かった。解答形式では、「選択形式」が、比較的正答率が高かった。
- ・2年生は、「粒子」の領域が、目標値や区平均より正答率が高かった。「知識・技能」の観点の観点で、区平均より高かった。
- ・3年生は、「エネルギー」、「生命」の領域で、目標値や区平均より正答率が高かった。「知識・技能」の観点で、目標値や区平均より正答率が高かった。

(2) 課題

- ・1年生は、「基礎」の問題、「思考・判断・表現」の観点の正答率が低かった
- ・2年生は、「活用」の問題、「エネルギー」「生命」の領域の正答率が低かった
- ・3年生は、「活用」の問題、「地球」の領域、「主体的に学習に取り組む態度」の観点の正答率が低かった

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	3観点ともに目標値を大きく下回った。特に「思考・判断・表現」が低かった。		
第2学年	3観点ともに目標値を下回った。比較的「思考・判断・表現」が低く、「知識・技能」が高かった。	「思考・判断・表現」だけが、目標値を越えた。「主体的に取り組む態度」が低かった。	
第3学年	「知識・技能」の観点は目標値より高く、他の2観点は目標値に届かなかったが区平均よりは高かった。	3観点とも目標値を越えた。一番低かった「思考・判断・表現」を育てていきたい。	3観点の中で、「知識・技能」だけが目標値に届かなかった。実験ができなかった影響があると考えられる。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より正答率が大きく下がった。「蒸散」、「呼気と吸気」に関する問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が大きく下がった。対照実験の目的、発芽の条件に関する問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が大きく下がった。発光ダイオード、植物と動物の関係の問題の正答率が低かった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より正答率が大きく下がった。フックの法則をグラフに表す問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が大きく下がった。脊椎動物の体表や化石について説明する問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が大きく下がった。鏡にうつる範囲、ギターの弦の弾き方の問題の正答率が低かった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より正答率が上がった。ガスバーナーの操作、グラフの作成、電流と磁界の正答率が低かった。	昨年度より正答率が上がった。実験からモミジの葉についての考察を考える問題の正答率が低かった。	昨年度より正答率が上がった。圧力を小さくする工夫を問う問題の正答率が特に低かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて繰り返し学習することで、知識を定着させる。	事象を調べる実験方法を考えさせたり、実験から事象を説明したり、考察したりする場面を増やす。	実験や観察をしてみたり、出来ない部分は映像で確かめたりして、主体的に取り組む態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定量的な実験の際は、可能な限りグラフ作成を行い、関係性を見いだすとともに作成法を身につけさせる。	授業の中で、現象や用語の自分で説明できるまで理解させ、記述問題に対応する力をつける。	雲の出来方や静電気の現象など、日常生活に見られる現象と関連づけ、主体的に取り組む態度を育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験の際には、くり返し器具の使い方を説明し、グラフにまとめ、実験の振り返りまで行い、定着を図る。	実験方法を考えさせたり、実験から事象との関係性を説明したり、考察したりする場面を増やす。	どのように応用されているか知り、工夫ができるか考えることで、主体的に取り組む意欲を高める。

令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 各学年の発達段階に併せて、英語でのビンゴや歌などを取り入れ外国語への親しみと学習意欲を高める取り組みを行った。
- ・ ペアワークやグループワーク、ALTとのやりとりを積極的に取り入れ、アウトプットの機会を増やした。
- ・ ICTを活用し、語形、語法に関するドリル学習を取り入れるなどして、基礎基本の定着を図った。

(2) 課題

- ・ 語形・語法に関する基礎知識を高めるため、授業内でドリル学習等の時間を増やしたり、生徒の実態に合った家庭学習の方法を提案したりなどして知識の定着を図る。
- ・ 英作文を行うことへの苦手意識が高い。授業で書く時間を十分に確保し、短い英文を書く練習を繰り返す必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全体的に目標値に近い正答率が出ているが、昨年度までの正答率や全国正答率と比較すると、どの観点に関しても低い数値が出ており、正答率が低い問題の分野も分散している。	/	/
第2学年	全体的に、目標値を上回る、または目標値に近い正答率がでている。リスニングの正答率は比較的高いが、基本的な語形・語法の問題においては目標値を下回っている。	校内正答率は目標値を上回る達成率であるが、大田区の平均正答率と比較すると、すべての領域で下回っている。特に「聞くこと」は区平均と比べ下回っている。	/
第3学年	聞くことに関しては目標値に近い正答率がでている。一方で、全体として目標値を下回っており、特に語形や語法の問題に課題がある。	全体的に、ほぼ目標値どおりだが、区平均と比較すると下回っている。聞くことは内容理解、対話など全体的に正答率が高いが、文法や英作文は低い。	全体の正答率は目標値を上回る達成率であるが、大田区の平均正答率と比較すると全ての領域で下回っている。特に「聞くこと」は区平均と比べ下回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 5.0 ポイント高い問題があるのに対して、全国正答率や昨年度の1学年の正答率と比較すると、最大で 23.3 ポイント低い問題がある。特にライティングの問題が苦手な傾向がある。	特にリスニングの問題で目標値より 8.0 ポイント低い数値が出ている問題がある。特に話を聞いて概要を捉える問題の正答率が低い。また、対話を聞き場面や状況を推測する問題に関しても1ポイントから5ポイント目標値より低い。	2問ある問題のうち、自分についての感情について書く問題が目標値より 1.8 ポイント低いのに対して事実を書く問題が目標値より 1.2 ポイント高く、さらに全国正答率よりも 17.9 ポイント高い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 2.2 ポイント高いが、区平均と比較すると 3.2 ポイント低い。リスニング問題の正答率は比較的高めだが、文法の正答率が低い。	目標値より 2.1 ポイント高いが区平均と比較すると 4.2 ポイント下回っている。リスニング問題の正答率は比較的高めだが、読むこと、書くことに関する課題がある。	ほぼ目標値と同等の達成率である。記述問題における「無回答」の割合が区平均値と比べて高いことが課題である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より 4.9 ポイント低く、語形・語法において課題がある。一方で、リスニング問題においては昨年度よりも正答率が上がった項目が多くあった。	場面に応じて書く英作文の正答率が昨年に比べ約 5~8 ポイント上がっているが、テーマに沿っての自由英作文は目標値から約 4~9 ポイント低い結果となった。	他の観点に比べて目標値との開きがマイナス 5.1 ポイントと、一番大きい。記述問題における「無回答」の割合が区平均値と比べて高いことが課題である。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 技能をフルに使って単語を暗記する時間を帯活動に設定する。ICT を使う時間と、対話的な活動であるペア・グループワークの時間をハイブリッドに取り入れ、学ぶことに飽きさせない工夫をする。	まずは単語や文法体系を理解した上での中期的な課題として、リスニングとリーディングの問題演習の時間を増やす。特に概要把握をするような課題を中心に行う。	特に英作文においては知識・技能の観点で行う例文暗記から発展させる形で自分自身について表現できるような課題設定を行う。スキヤフオールディングを意識して行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文の暗記、ドリル、暗写を通して文法の定着を図り、小テストで定着度を確認する。日・英の語順の違いを意識させ、日本文から英文への変換の練習を行い、基礎力の定着を図る。	英語の文章の型(主張、理由、具体例など)を意識させて読ませ、重要などところを読み取る力を向上させる。自己表現させる英文をたくさん書かせ、作文力を高める。	話すことにおいては、生徒の興味を引く身近なテーマを用意し、ペアワーク等で対話させ、自分を表現することに慣れさせる。また、その内容を書かせ、書く力を向上させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICTを活用し、個々のレベルに合わせた課題に取り組める機会を増やしていく。既習事項の復習や基礎基本を徹底できる授業を行っていく。	英文を復唱させ、十分に語形・語法を身につけたものを書く指導をしていく。また、自由英作文の機会を増やし、書くこと・表現することへの抵抗感を減らしていく。	主体的に学ぶ力を付けるために、基礎力を高めたり、家庭での学習方法を提案したりしていく。併せて英語の歌や英語圏の文化などを紹介し、興味を高めていく。

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱活動では、2年で「夏の思い出」を取り入れた。音楽を形づくっている要素を知覚することで、感受した曲の雰囲気との関わりを、ヒントカードを使いながら考えることができた。
- ・器楽活動ではアドバイスカードを取り入れ、ギターやリコーダーを助言し合いながら取り組むことができた。

(2) 課題

- ・楽典については、音符の名前などを期末テストに何度も出題することで、定着を促してきたが、まだ不十分であるように感じる。普段の授業でもタブレットでのエクササイズを積極的に取り入れて、引き続き知識をつけさせていく。
- ・音楽表現を工夫しようとすることに課題を感じる。さまざまなイメージを持って音楽を表現できるように、資料を多数提示することでより具体的なイメージを感じ取れるようにしたい。

2 観点別の課題

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
楽典の知識が定着せず、かなり厳しい。しかし一方で歌唱・器楽の技能面では、物怖じせずに表現することができるのでとても良い。	基礎的な知識が足りていないので、表現を工夫するところまでいけないことが多い。しかし、一方で模範演奏を模倣することは得意な生徒も多い。	授業中は注意散漫になることが多いが、発問に対して活発に発言することができる。器楽・歌唱活動の練習の集中力がまだ育っておらず、振り返りカードを書くことができない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
理解力に差がある。また、歌唱では、大半の女子生徒は音感が良い。一方で、男声の音程が不安定である。楽典の知識の定着は少しずつできてきたように感じる	表現の工夫について指摘すれば改善が見られる。しかし、自ら表現を工夫しようという思考力は乏しいように感じる。	授業中は非常に積極的で、活発に発言することが多い。しかし、集中力が続かないことがある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
クラス的人数が少ないこともあり、歌唱活動での声量が全体として少ない。知識の吸収は比較的早いですが、時間が経つと忘れてしまう傾向がある。	表現のために必要な思考・判断力が乏しい生徒が多い。鑑賞では、注目するポイントを提示すると、よく考えることができるが自ら見つけることはできない。	授業中の発言は多い。しかし、歌唱活動になると、声が小さくなる。歌にあまり自信のない生徒が多いように感じる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物怖じせずに表現ができる ところを活かして、技能の向上を図っていききたい。より実技を中心とした指導を取り入れていき、そこで枠組みを作ってから知識を涵養していく。	模倣することが得意なことを活かして、表現力の向上を図っていききたい。また、その表現に至った根拠も考えさせることで自ら表現する力を付けていききたい。	主体的に学習に取り組む態度 発問に対しては挙手で答えるようにするなど、まずは授業規律を整え、落ち着いた授業の確立を目指す。振り返りカードを簡単なものにして、1回1回の授業でしっかり書く習慣を身につける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な楽典知識を授業の導入の際等に復習させ、知識の定着を促す。歌唱では、変声期をむかえる男子生徒に苦手意識をもたせないよう、細かく指導していく。	表現についてパートごとに考える機会を増やし、他者の意見を取り入れながら自身の表現を工夫できるようにする。	主体的に学習に取り組む態度 授業規律を守らせることを徹底させる。また、授業の流れを最初に説明することで学習の見通しをもたせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱の正しい姿勢や発声を、身につけることができるよう、歌唱の際には必ず姿勢・発声・呼吸の3点を意識させる指導を行う。	他者の演奏を鑑賞し、アドバイスすることができるよう、お互いの演奏を聴き合う活動を取り入れる。鑑賞ではどこに注目して聴くかを考えさせる。	主体的に学習に取り組む態度 音楽に興味・関心をもたせるために、普段の生活と音楽との関わりに気づかせる。授業の流れを確立し、生徒に学習の見通しをもたせる。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・コロナ禍により、個々の体力差やスキルの差が大きく広がっている中、レベルに応じた課題を提示し、粘り強く取り組めるように工夫した。
- ・全体的に体力が低下している中、体力向上をめざし400m走やトレーニングを感染防止も考慮しつつ行い、体力向上を目指した。

(2) 課題

- ・男女共修による男女の体力差、個々のレベル幅に応じた指導を行いつつ活動量を確保することが課題である。
- ・コロナ禍によりグループ学習を制限されていたことから、コミュニケーション能力が低下している。グループ活動を増やし、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てる。

2 観点別の課題

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体力・技能の差が大きい。知識に関しては、全体的に低い。	知識が低いことに伴い、思考力も低い。表現に関しては、自分の考えたことを他者に伝える力はある。	運動に積極的に取り組むことができるが、思考力が低いことから、危険を予測して活動する力が弱い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男子は学習意欲が低く、知識も低い生徒が多い。女子は学習意欲が高く、知識も高い生徒が多い。男子女子共に、技能の高い生徒は多いが、平均より低い生徒も多いなど、技能差がある。	女子と男子で差がある。女子は自ら考えて動く力は全体的に高いが、思春期や男女共修ということもあり、積極的に動く姿が見られない。男子は思考・判断・表現力が全体的に低い。	主体的に取り組む生徒は少ない。元々の思考力が低いこともあり、自ら考えて動く能力が低い。自己肯定感も低い様子がうかがえる。そのため、自分から失敗を恐れずにチャレンジしようとする意識が低く感じる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男子は学習意欲が低く、知識も低い生徒が多い。女子は学習意欲が高く、知識も高い生徒が多い。男子女子共に、技能の高い生徒は多いが、平均より低い生徒も多いなど、技能差がある。	女子と男子で差がある。女子は自ら考えて動く力は全体的に高いが、思春期や男女共修ということもあり、積極的に動く姿が見られない。男子は思考・判断・表現力が全体的に低い。	主体的に取り組む生徒は少ない。元々の思考力が低いこともあり、自ら考えて動く能力が低い。自己肯定感も低い様子がうかがえる。そのため、自分から失敗を恐れずにチャレンジしようとする意識が低く感じる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
何度も同じことを反復的に学習するようにする。発問形式を取り入れ生徒が授業の中で用語やポイントを復習できるようにする。	自己の課題をみつげられるよう、一人一人に課題を提示できるようにする。また、合理的な解決に向けて運動の取り組み方をいくつか提示し、選択できるようにする。グループ学習を積極的に取り入れる。	危険予測ができるように、様々な場面で、安全へのルールを示す。グループ活動を多く取り入れる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識を習得しやすいように必ず可視化したプリントを作る。技能差があるため、習熟度に合わせたドリルワークを複数用意して全生徒が自身の技能に合ったドリルワークを適切に選んで取り組めるようにする。	実技では、習熟度に合わせたドリルワークを複数用意して全生徒が自身の技能に合ったドリルワークを適切に選んで取り組めるようにする。保健でも毎回必ずグループワークを取り入れ、意見を交わす機会を設ける。	授業のおもしろさを高めるために、自身の授業力を高める。生徒同士の交流機会を多く設けて、生徒同士で主体的に取り組む態度を高める。よい行動は褒め、自己億定款を高めていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識を習得しやすいように必ず可視化したプリントを作る。技能差があるため、習熟度に合わせたドリルワークを複数用意して全生徒が自身の技能に合ったドリルワークを適切に選んで取り組めるようにする。	実技では、習熟度に合わせたドリルワークを複数用意して全生徒が自身の技能に合ったドリルワークを適切に選んで取り組めるようにする。保健でも毎回必ずグループワークを取り入れ、意見を交わす機会を設ける。	授業のおもしろさを高めるために、自身の授業力を高める。生徒同士の交流機会を多く設けて、生徒同士で主体的に取り組む態度を高める。よい行動は褒め、自己億定款を高めていく。

令和5年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用した場面を増やして、協力して学ぶ活動を多く取り入れることによってより深い学びができた。
- ・授業の目的や私生活の中でどのように使われているかなどを説明した上で授業を行ったため、全体的に意欲的に活動していた。また、関心をもって授業に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・集中力にかける場面があった。
- ・技能にばらつきがあり、作業の進度に差ができたことで一斉指導が難しかった。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生活に必要な技能を定着させるために、実技の授業の時間を多く確保できるよう工夫していく。 ・実物を示したり、実際に触れたり、体験する活動を増やしたりして技能を定着させる。	生活について、課題を自ら考え、解決していく方法を考えていく時間をより多く設ける。また、考えた内容をペアやグループで共有し、深い学びが得られるような工夫を行う。	ICT機器（PCと大型テレビ）を効果的に使用し、生徒の興味や関心を高める工夫を行う。 机間指導での個別指導やアドバイスを適宜行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実物を示したり、実際に触れたり、体験する活動を増やして技能を定着させる。	作品製作の計画を立て、毎時間見直すことで、見通しをもつ力をつけるとともに、計画を修正してよりよいものを作るための工夫をする。	ICTを有効的に活用し、わかりやすい授業を行う。 ねらいを明確化し生徒が見通しを持てるような授業を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活に必要な技能を定着させるために、実技の授業の時間を多く確保できるよう工夫していく。	学習内容を踏まえた作品のデザイン・設計を行い、目的に応じた作品製作を行う。	ICTを有効的に活用し、わかりやすい授業を行う。 毎時間の授業の目標を掲示し、授業の目標を把握できるようにする。